

Tokai Fubokon Letter

第32回愛知サマーセミナー

愛知私学が誇る「誰でも先生、誰でも生徒」をモットーに行われる「夢の学校」通称サマセミが、7月17日(土)18日(日)の2日間、名城大学ナゴヤドーム



前キャンパスと市邨中学校・高校にて2年ぶりに開催されました。今年は講座内容・講座数・受講定員の制限を付け、事前予約も取らず、開催日を一日減らす措置を取り、感染対策を徹底した上での開催となりました。

今回の名誉校長は名城大学名誉教授・ノーベル化学賞受賞者の吉野彰先生。その他にも大勢の特別講師が招かれ、講座によっては入場整理券の配布もありました。コロナ禍でこれだけの会を安全に行うためには、主催者の方々の相当な準備と関係者のご尽力があつてのことだと思います。そのおかげで会場は程良いスペースを保ちつつも、外の暑さに負けにくい熱気にあふれていました。

そして東海からも教員講座9、生徒講座8、父母講座4、さらに、高フェスによる「生徒8大講座」や希望プロジェクト、そして弁論部が運営を担当した第23回寺内杯中高生弁論大会など多彩な講座やイベントが展開されました。



サマセミの趣旨は「教えたいことを教え、学びたいことを学ぶ」。誰にとっても充実した会になったことは間違いありません。

【初参加の父母のレポート】

ちょうど梅雨が明けただばかりで、朝からうだるような蒸し暑さでしたが、初めての参加ということもあり、そんな暑さも忘れてしまうほど、夢中で会場内を見て回りました。

当日は把握しきれないほどの講座があり、限られた講座しか見て回れません。しかし各教室はガラス張りの壁で仕切られているので、講師の先生に向けられる真っ直ぐで真剣な眼差しを垣間見ることができ、受講する生徒さんの吸収欲や好奇心を感じ、それがとても印象に残りました。

東海父母からも4つの講座がありましたが、以前から興味があったレザーバーニングに参加しました。数種類の皮の中から好みの形を選び、電熱ペンを使って、下絵を焼き焦がして跡をつけていきました。簡単そうにみえて案外力加減が難しく、不器用な私と思うような出来にはなりませんでした。オリジナルのキーホルダーはやはり嬉しいもので、初めての私でも楽しめる講座でした。



当日は、子どもからご年配の方まで、幅広い年齢層の方が参加されましたが、どなたでも楽しめるよう、どの講座も考えられていたように思います。心配していた感染対策にも配慮がなされ、人気の講座やイベントでも、密にならない程度の丁度よいゆとりも感じられ、安心して会場内にいることができました。

初めて参加したサマーセミナーですが、「学びの機会」「父母懇活動を広める」という意味でも、今後も続いて欲しいイベントだと感じさせられる1日でした。まだ参加されていない方はぜひ来年、ご参加されてはいかがでしょうか？

ここからは18日に名城大学で行われた東海父母
関連の講座のご報告です。

1限 「リリカルカラーセラピー」

高橋千佳子先生

東海OBのお母さまでもある高橋先生による、色彩
心理を取り入れた一対一のカウンセリング(約20分)
が行われました。

カウンセリングでは、数種類
の色の中から「直感」で気にな
る色を選んでいただき、選んだ
色の示す言葉をもとに参加者の
心と対話します。



高橋先生は色で心を癒すメンタルケアについて研
究を重ねられ、企業のキャリアカウンセラーとして社
会人と企業の架け橋となり、個々の能力とライフス
タイルを見極めながら、その人に適したキャリア形成を
サポートされています。現在はスクールカウンセラー
を目指し、猛勉強中だそうです。

色で心を癒すメンタルケアは、色を通して自分で
気づくことのできない感情と向き合うことで、ストレス
がたまるのを防いだり、気分を上げたり、自分の気づ
かない能力を見つけるなど、さまざまな効果があるよ
うです。手軽にできるアドバイスとしては、その時々の



気持ちやこれから
変わりたい方向に
導いてくれるカラー
を、自宅や職場など
身近な場所に置くと
良いとのことでした。

カラーセラピーを終えた方々は、スッキリした様子
で「自分の心をさらけ出し、自分の気づかない能力を
見つけるきっかけになった」「直接的に今抱えている
問題が解決できなかったとしても、心が軽くなればそ
れだけで生活の質は上げられるのでは」といった前
向きな感想が寄せられました。

コロナ禍で何かと不自由を強いられる中、心で楽
しむリフレッシュ方法が学べた講座でした。

【参加者の感想】

過去・現在・未来のそれぞれ直感で選んだ色の意
味が、私の状況にぴったり合致していて、とても驚きま
した。これから自分自身で幸せになるために、切り開
いていくヒントをいただけたように思いました。

2限 「洗えるキラキラマスクケース」

相澤理恵子先生

ビニール素材のテープ(ラメルヘンテープ)を使っ
て作るマスクケースの講座を受講しました。参加者は
小学生から年配のご婦人ま
で幅広く、材料はどなたでも
簡単に製作できるよう、あら
かじめ型もテープもカットさ
れていました。「指先を使って
テープを通すだけ」です!



コロナ禍なのでおしゃべりしながらとはいきませんが、
つついとお隣の初対面の方にも声をかけたくな
ってしまいます。話しながらでもできる単純な作業な
ので、気軽に挑戦することができます。もし間違えても
簡単にやり直すことができますので、気を使わなくて良
いのも魅力です。また、色や配置を変えるだけで印象
が変わり、仕上がりが全く違った物になります。素材
がビニールなので石鹸で洗って消毒ができるのも、
このご時世、助かります。

講座の終わりには出来上がった作品を見せ合っ
て「この色もいいね!」と、楽しく感想を話せました。また、
型の大きさやデザインも無限に変化させることができ
て、当日講師の先生が持っていらした大きめのトート
バッグやショルダーバッグなども、皆さんの「いいね」
をたくさんもらっていました。



コロナでお家時間
が増える中、色々なデ
ザインをご自身で考え
てプチデザイナーとし
て、ステキな作品を仕
上げてみるのもいい



かもしれませんね！気持ちも作品もキラキラしたひと時でした！

【参加者の感想】

マスの目が程よい大きさと、楽しんで作ることができました。講師の先生もこまめにチェックしてくださったので、失敗することなく、安心して完成させることができました。

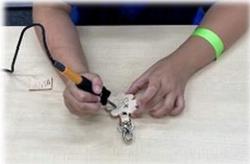
3 限「誰にでもできるレザーバーニング」

堀江均先生

電熱ペンを使って革に絵や花やイニシャルを描く、レザーバーニングに参加しました。



下絵に沿って電熱ペンの力加減で描いていきますが、力を入れすぎるとペン先が革を焼き焦がし、革を掘りすぎてしまいます。途中、飾り気のないシンプルなものになってしまいましたが、講師の先生からのアドバイスもあり、素敵なイニシャルに仕上がりました。おしゃべりをしながら進めていたのですが、気づけば黙々と取り組んでいました。



最後にスワロフスキーを好きな場所に加えて、世界で一つだけのオリジナルキーホルダーが完成しました。

もう一度作って、もっとオリジナリティを出したり、いろいろと試してみたくなりました。

皆さんと一緒に作りながら、楽しいひと時でした。

4 限「聞き書きのすすめ」

安東則子先生

「聞き書き」。初めて聞いた言葉でした。速記のようなことなのかと思いながら講座に参加いたしました

が、全く違っており

ました。「『聞き書き』とは、語り手の話を聞き、それをその人の『話し言葉』でそのまま書いて、一冊の



本にして後世に残すこと。作文と違って文章が上手かどうかは関係なく、国語が苦手でもできて、語り手が話したように書けば良いので簡単にできる。口癖がそのまま活字になるので、その人の人となりを感じながら読めるのが良いところ。文章は一人称で書かれるのも特徴で、誰もが聞き手にも語り手にもなれる。」

そう語るのは、講師の安東則子先生（看護師）。11年前に上司から何気なく「聞き書きできるんじゃない？」と言われたのがきっかけで始められ、講習を受けているうちにみるみる好きになっていったそうです。そして、看護にも活かせるコミュニケーションツールだということにも納得されたそうです。

「聞き書き」は、2000年に井上ひさしさんや数人の学識会で始まったもので、現在では全国にいろいろな職種の方々が集まってサークルやグループを作り、活動を広めています。医療や介護の現場においても広がっており、2年に1回、交流の場として「聞き書き学校」というものが開かれています、と話されました。



伝えたくてもなかなか伝えられないことを、第三者になら遠慮なく素直に言えたり、聞いてもらいやすかったりします。なにより、人は聞いてもらうだけで心が軽くなることがあります。そういった意味で「聞き書き」は、人の話を丁寧に聞くことから始まる、人の心に寄り添った活動でもあるといえます。さらに、本にしていただけですので、後で何回も読み返すこともできますし、そっと伝えたい誰かに手渡すこともできます。

先生によると、本を作成する際に一番気を使うとこ

ろは「本の題名」を決めることなのだそうです。そして、どの本にも題名のそばに素敵な表紙絵が添えられていて、手作りならではの優しさを感じさせられます。

先生はお年寄りの方のお話を聞くことが多いそうですが、その苦労話からは生きる知恵を学ぶことができ、そこからお年寄りを敬う気持ちが生まれてくる。つまり「聞くことは敬うこと」であり、「聞き書き」は人生を豊かにしてくれるものだとおっしゃっているのが印象的な講座でした。

編集後記

2年ぶりのサマセミは、様々な制限はかかりましたが、以前と変わらず活気ある会のまま帰ってきてくれたように思います。それはどんな状況でも楽しみたい、伝えたい、学びたい、そんな人の思いが詰まっているからに違いありません。

ここには紹介していませんが、東海の先生や生徒の講座も見て回りました。先生方は授業とも違う、しかし質の高い講座を、生徒は自分の得意分野をそれはイキイキと!

32回も続く愛知私学の伝統をこれからも多くの人が支え、つなげ、たくさんの学びを共有していけたら素晴らしいと思います。